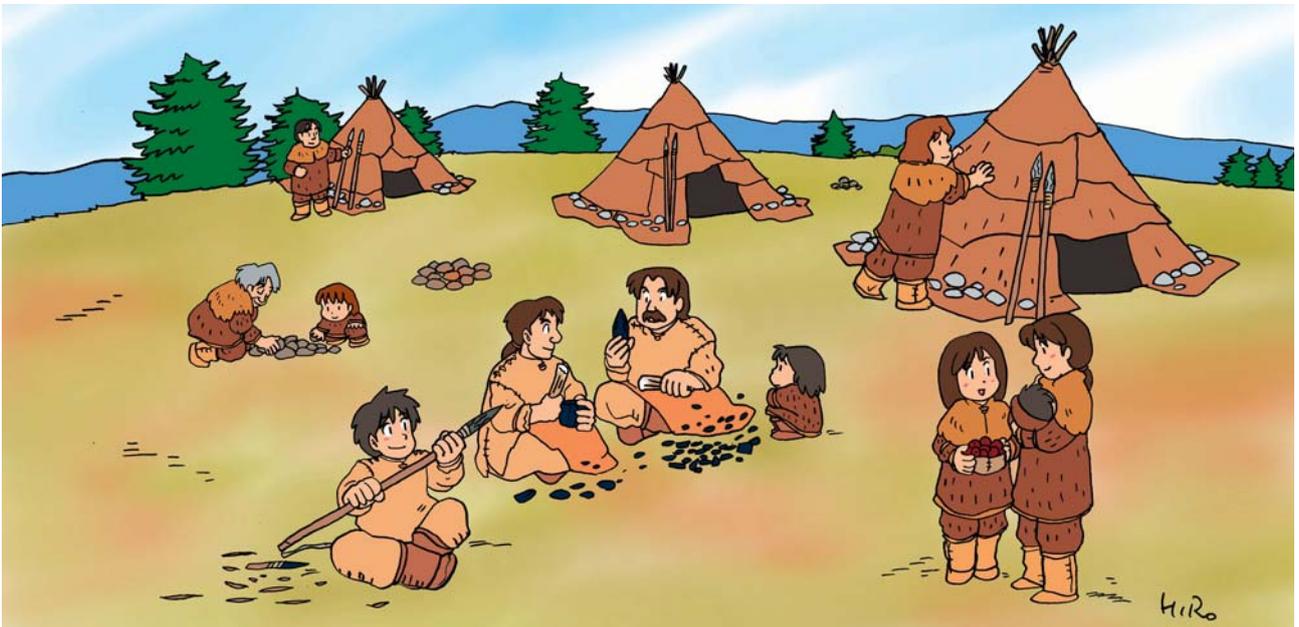


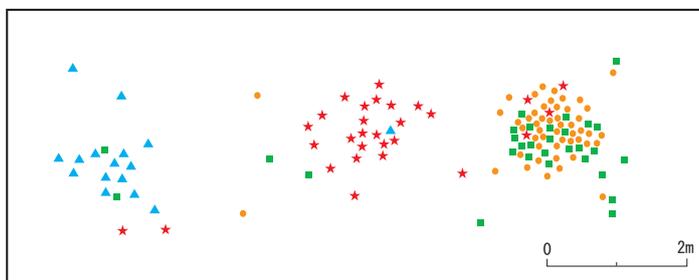
IV-7

いせき せいかつ 遺跡での生活のようすは どうだったのだろうか？

岩宿（旧石器）時代の遺跡でイエの跡が発見されることはほとんどありません。遺跡では石器が直径2・3mほどのまとまりをもって発見されるのがほとんどです。その様なまとまりを「ブロック」と呼んでいますが、ブロックは石器を作ったり使ったりした場所であったと考えられています。また、握りこぶしぐらいの焼けた石が、数十個から数百個まとまって発見されることがありますが、調理の跡と考えられており、それを「礫群」と呼んでいます。ブロックと礫群は、遺跡のなかでセットになって発見されることが多くあります。このようなセットは、一家族が生活したイエやその周辺の状況がそのまま残されたものと考えられており、当時の生活を考える上で重要な単位となっています。



● 岩宿（旧石器）時代の生活
(イラスト：さかいひろこ氏)

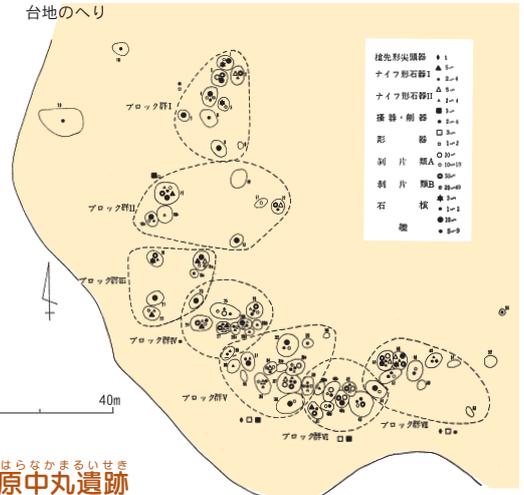


同じマークのものは1つの石から割られた石器やその作りかす

● 砂川遺跡

砂川遺跡では、異なるブロックから同じ石で作られた石器が発見され、それらのブロックで生活した人々の間で石器を交換するような関係があったことがわかっている。

台地のへり



● 栗原中丸遺跡

砂川遺跡と同じ時期の大遺跡。56ものブロックが台地のへりにそうように発見されたが、数家族がこの場所を繰り返し使ったことによって、大遺跡になったと考えられている。